

令和6年台風第10号関連 説明資料

～台風第10号の今後の見通しについて～

日時：令和6年8月29日11時00分

場所：津地方気象台 観測予報管理官

(本資料に関するお問い合わせ)
津地方気象台 防災グループ：059-228-6818 (平日のみ)

今後の見通しについて

【ポイント】

- ★ 三重県では、暖かく湿った空気が流れ込みが断続的に続き、31日頃は台風の雨雲の影響も加わるみこみです。このため、**雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、警報級の大雨となる見込みです。三重県では、29日夜から30日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。**
- ★ 非常に強い台風第10号は九州の西を北上しています。台風は、29日夜から進路を次第に東よりに変えて、三重県には9月1日から2日頃に接近する可能性があります。
- ★ 台風の接近により、波はうねりを伴って次第にしけとなり、30日以降は大しけとなる可能性があります。また、31日は、海上で非常に強い風が吹く見込みです。

【防災事項】

土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、高波や暴風に警戒してください。
また、竜巻などの激しい突風、落雷や降ひょうに注意してください。

警報級の可能性

【警報級となる可能性のある期間】

8月29日11時発表

日		8月29日		8月30日		8月31日	9月1日	9月2日
時		06-18	18-06	06-24	00-24	00-24	00-24	00-24
北中部	雨	高	高	高	高	高	高	中
	風							
	波			高	高	中		
	高潮							
南部	雨	高	高	高	高	高	高	中
	風							
	波		中	高	高	中		
	高潮							

(■ [中 (可能性がある)] ■ [高 (可能性が高い)])

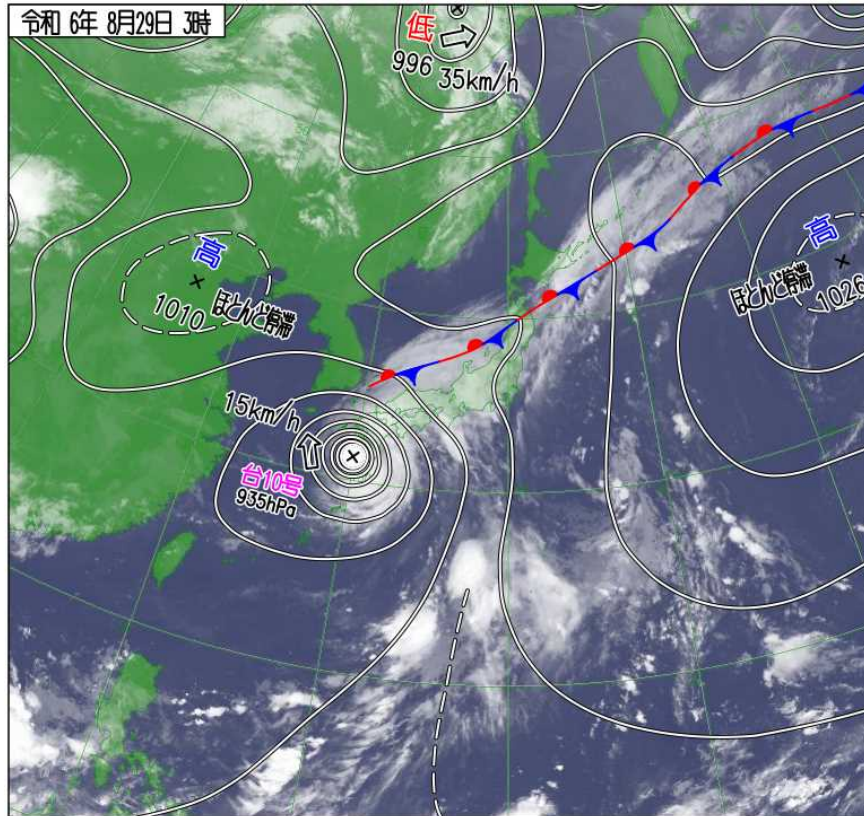
※警戒レベルとの関係

早期注意情報 (警報級の可能性) …【警戒レベル1】

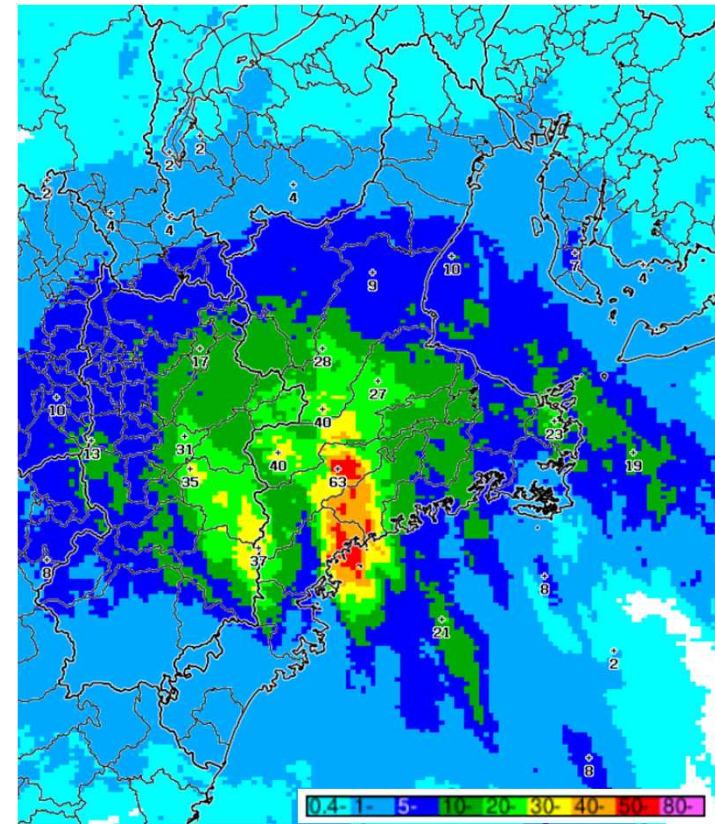
29日は大雨警報や洪水警報を発表する市町が広がる可能性があります。また、土砂災害警戒情報を発表する可能性があります。

今後の予想を含めた最新の情報は気象台が発表した気象情報をご利用ください。
(気象警報・注意報: <https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>)

8月29日 天気図と解析雨量



実況天気図
(8月29日 3時)



8月29日 6時30分の解析雨量

今後の予想を含めた最新の情報は気象台が発表した気象情報をご利用ください。
(天気図: https://www.jma.go.jp/bosai/weather_map/)

降り始め（25日18時から）の降水量



降り始めからの総雨量

×

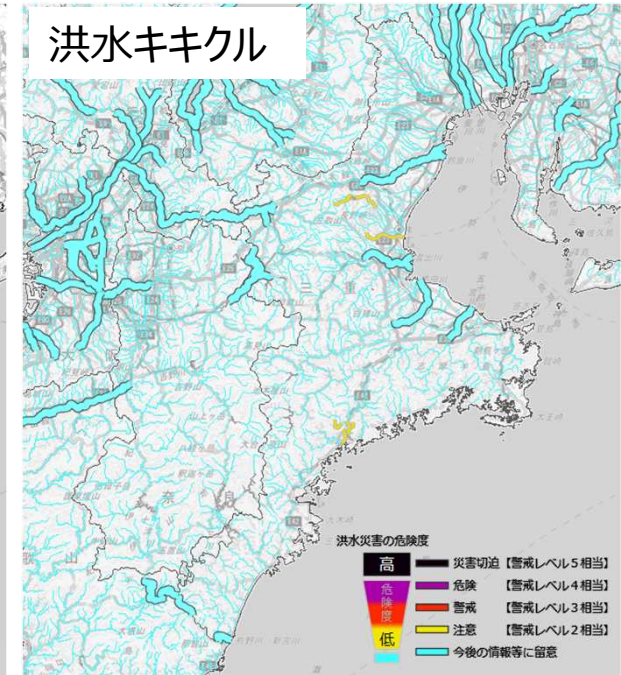
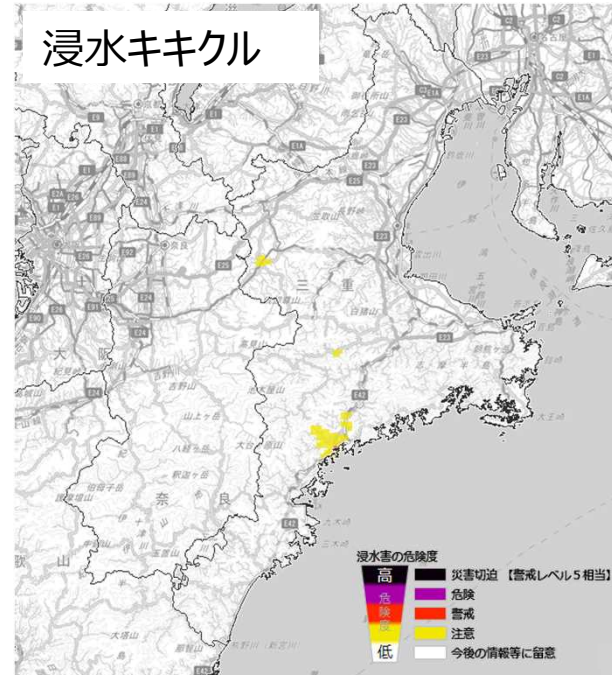
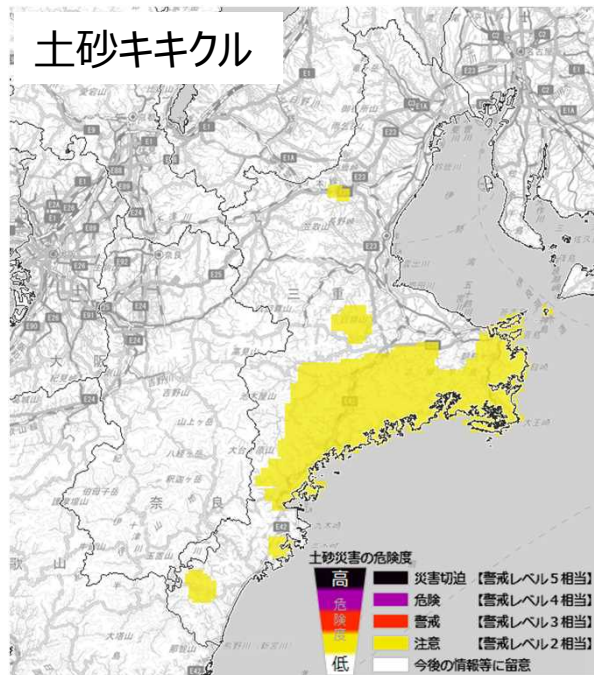
降り始めからのアメダス総雨量（速報値） 三重県			
08月25日18時から08月29日07時まで			8月の 平年値（mm）
一次細分区域	アメダス観測所	総雨量(mm)	
北中部	松阪市粥見	169.5	272.3
	津市笠取山	144.5	254.8
	津	128.5	144.5
	亀山	101.0	180.8
	津市白山	87.0	200.1
	いなべ市北勢	79.0	201.0
	四日市	65.0	158.8
	桑名	52.0	137.1
	名張	35.0	139.3
	上野	27.0	136.4
南部	尾鷲	280.0	427.3
	紀北町紀伊長島	246.0	262.2
	大紀町藤坂峠	234.5	246.1
	志摩市阿児	206.0	143.7
	鳥羽	196.0	187.0
	大台町宮川	187.5	490.7
	御浜	184.0	331.6
	熊野新鹿	172.0	265.4
	南伊勢	171.0	185.8
	伊勢市小俣	138.5	160.2

29日7時まで
アメダスによる速報値

○ ： 8月の平年値を超過

8月29日 キキクル（危険度分布）

これまでに降った雨の影響で、南部を中心に危険度2（警戒レベル2相当）の所があります。

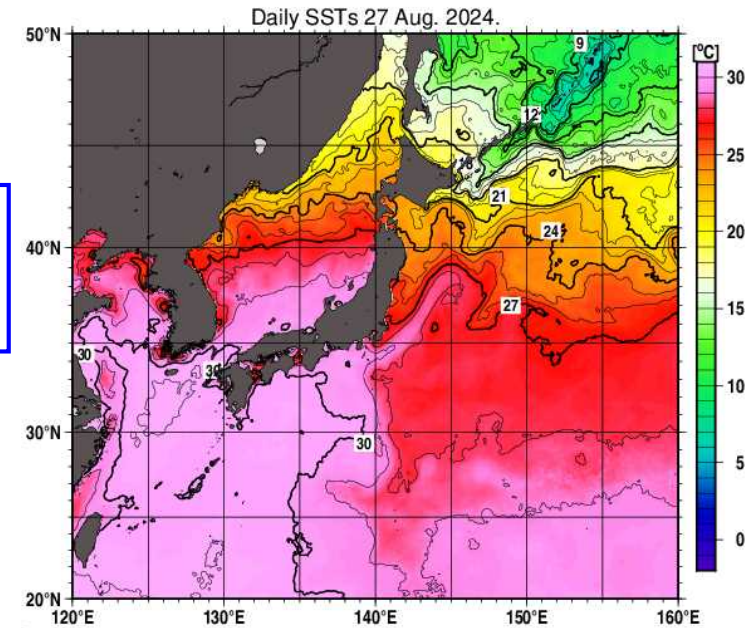


8月29日6時40分

最新のキキクル（危険度分布）をご利用ください。
（土砂キキクル：<https://www.ima.go.jp/ip/doshamesh/>）
（浸水キキクル：<https://www.ima.go.jp/ip/suigaimesh/inund.html>）
（洪水キキクル：<https://www.ima.go.jp/ip/suigaimesh/flood.html>）

台風第10号の予想

非常に強い台風第10号は、29日夜から進路を次第に東寄りに変えて、三重県には31日から9月1日頃に接近する可能性があります。31日以降は予報円が大きく、台風の進路には不確実性が大きくなっています。最新の台風情報に留意してください。



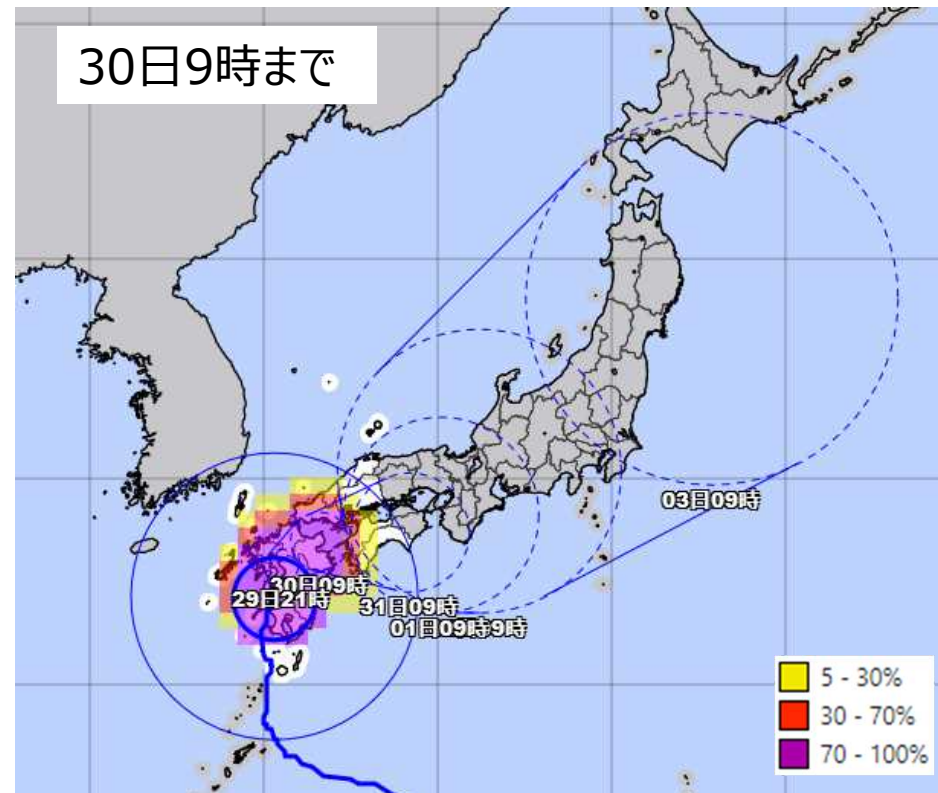
海面水温
(8月27日)

今後の予想を含めた最新の資料をご利用ください。

(台風情報: https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#4/35.0/150.0/&elem=typhoon_all&typhoon=all&contents=typhoon)

台風第10号 暴風域に入る確率

三重県の暴風域に入る確率は低いですが、台風の東進に伴って気圧の傾きが大きくなるため、31日は海上で20m/sの非常に強い風が吹く見込みです。



台風第10号（暴風域に入る確率）
（8月29日9時発表）

今後の予想を含めた最新の資料をご利用ください。

（台風情報：https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#4/35.0/150.0/&elem=typhoon_all&typhoon=all&contents=typhoon）

雨の量的予想

8月29日5時

【雨の予想】

三重県では、山の東から南斜面を中心に、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が断続的に降り大雨となる見込みです。総降水量は8月の平年値を大幅に超える可能性があります。

- ◆ 30日にかけて予想される1時間降水量は、いずれも多い所で、
北中部 50ミリ
南部 60ミリ
- ◆ 30日6時までの24時間に予想される降水量は、いずれも多い所で、
北中部 150ミリ
南部 300ミリ
- ◆ 31日6時までの24時間に予想される降水量は、いずれも多い所で、
北中部 150ミリ
南部 300ミリ
- ◆ 9月1日6時までの24時間に予想される降水量は、いずれも多い所で、
北中部 150ミリ
南部 300ミリ

線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。総降水量は、多い所で北中部で400ミリ、南部で800ミリの可能性があります。

風の量的予想

8月29日5時

【風の予想】

◆ 31日は、海上では南の風が非常に強く吹く見込みです。

30日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、

北中部 陸上 11メートル（20メートル）

海上 16メートル（30メートル）

南 部 陸上 8メートル

海上 17メートル（30メートル）

31日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、

北中部 陸上 15メートル（30メートル）

海上 20メートル（30メートル）

南 部 陸上 15メートル（30メートル）

海上 20メートル（30メートル）

波の量的予想

8月29日5時

【風の予想】

◆ 海上では、うねりを伴い次第に大しけとなる見込みです。

29日に予想される波の高さは、

北中部	内海	1.5メートル	うねりを伴う
南部	伊勢志摩内海	2.5メートル	うねりを伴う
	外海	4メートル	うねりを伴う

30日に予想される波の高さは、

北中部	内海	3メートル	うねりを伴う
南部	伊勢志摩内海	4メートル	うねりを伴う
	外海	6メートル	うねりを伴う

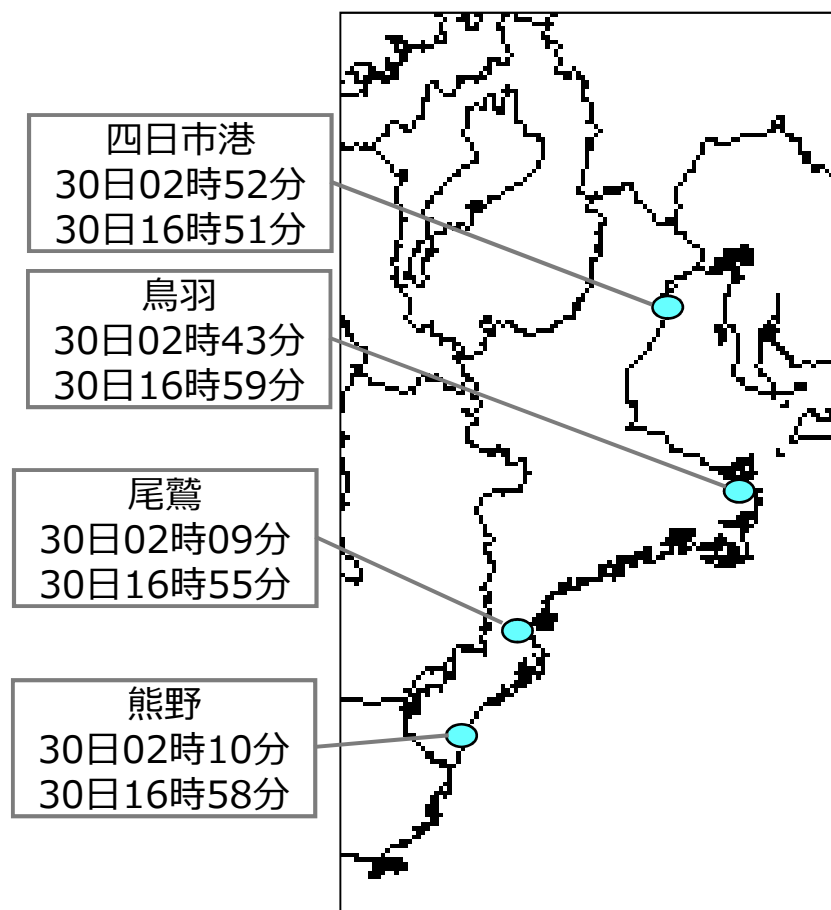
31日に予想される波の高さは、

北中部	内海	3メートル	うねりを伴う
南部	伊勢志摩内海	4メートル	うねりを伴う
	外海	6メートル	うねりを伴う

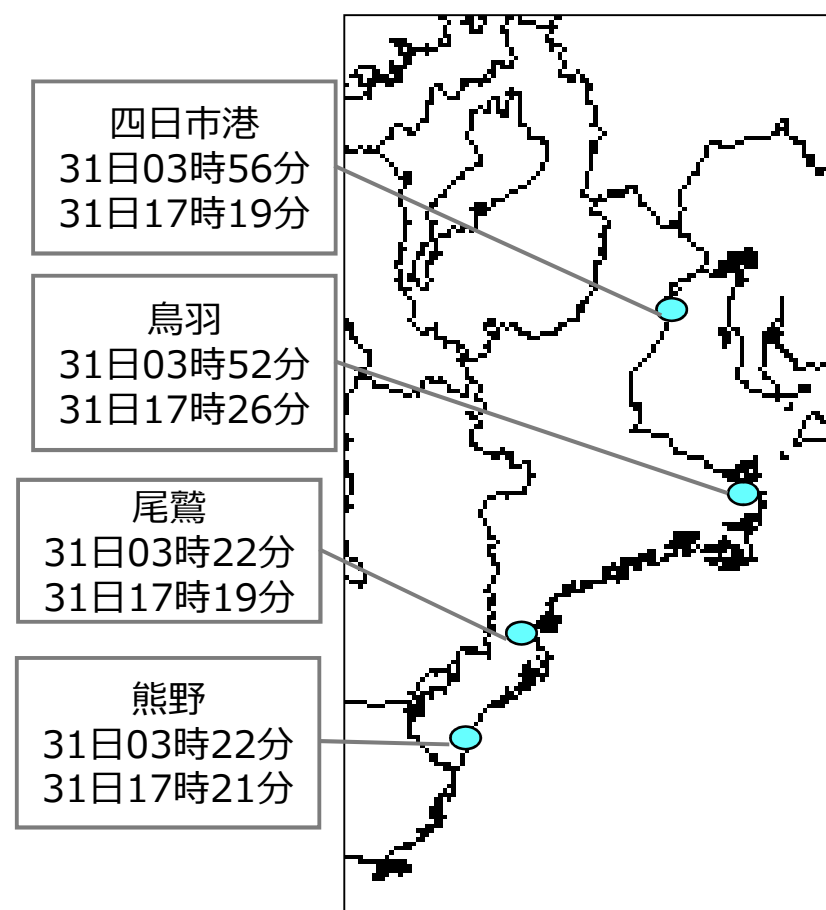
うねりを伴った高波に警戒してください。

満潮時刻

8月30日



8月31日



潮位観測情報 <https://www.jma.go.jp/jp/choi/>

潮位表 http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/tide/suisan/s_tokai.php

台風第10号 留意事項

- 三重県には、台風や太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込むため、断続的に雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所があるでしょう。台風の接近する30日から9月1日頃は雨が一層強まり、大雨災害の危険度がさらに高まる可能性があります。
- 暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては、線状降水帯が発生する可能性があります。
- 台風や長雨により土砂災害や河川の氾濫の危険度が高まる可能性があります。山や崖、川の近くにお住いの方は、キキクル（危険度分布）や自治体からの避難に関する情報などを随時確認してください。
- 雨や風が強くなる前の明るいうちに、ハザードマップを確認するなど、早めの対策をお願いします。交通機関への影響も考えられますので、最新の交通情報に留意してください。また、停電や断水等への備えもお願いします。

今後の情報の発表予定

- 「令和6年台風第10号に関する**東海地方**気象情報」
 - 今日29日16時頃に発表する予定
- 「令和6年台風第10号に関する**三重県**気象情報」
 - 今日29日17時頃に発表する予定
- 今後の気象台が発表する**防災気象情報（警報、注意報、竜巻注意情報、気象情報など）**に留意してください。また、土砂災害、浸水害、洪水害の危険度に関しては、10分毎に更新されるこれらの**キキクル（危険度分布）**を気象庁ホームページで確認してください。

参考資料

○台風の大きさと強さ

台風の大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さ	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

○雨や風、波に関する用語

1時間雨量	用語
10mm以上～20mm未満	やや強い雨
20mm以上～30mm未満	強い雨
30mm以上～50mm未満	激しい雨
50mm以上～80mm未満	非常に激しい雨
80mm以上～	猛烈な雨

最大風速	用語
10m/s以上～15m/s未満	やや強い風
15m/s以上～20m/s未満	強い風
20m/s以上～30m/s未満	非常に強い風
30m/s以上～	猛烈な風

波高	用語
4mを超え6mまで	しける
6mを超え9mまで	大しけ
9mを超える	猛烈にしける

参考資料

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始 める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	50
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km～						60

- (注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。
- (注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。
- (注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。
1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
 2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
 3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

お知らせ

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

○気象警報・注意報(大雨、洪水、暴風(雪)、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける)

<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

○キキクル(危険度分布)

土砂災害 <https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>
浸水害 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>
洪水害 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>



気象庁HPのバナーをご利用ください。

○各地の気象情報(気象概況や大雨の見通し)

<https://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>

○台風情報(台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し)

<https://www.jma.go.jp/jp/typh/>
https://www.jma.go.jp/jp/typh/typh_text.html

○指定河川洪水予報(国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測)

<https://www.jma.go.jp/jp/flood/>

○土砂災害警戒情報(命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに厳重な警戒を呼びかける)

<https://www.jma.go.jp/jp/dosha/>

○最新の気象データ(雨雲の動き、今後の雨、雨や風の観測データ)

<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>
<https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/>
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/rank_daily/prerct00.html#pre24h_rct
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/rank_daily/data00.html#mxwsp

(本台風説明会資料に関するお問い合わせ)

津地方気象台:059-228-6818

(参考) 5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象庁等の情報			市町村の対応	住民がとるべき行動	警戒レベル	
キキクル						
大雨 特別警報	災害切迫	氾濫 発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5	
<警戒レベル4までに必ず避難！>						
土砂災害 警戒情報	高潮 警報	高潮 特別警報	危険	危険	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
※ 大雨警報 洪水警報	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	氾濫 危険情報	警戒	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3	
大雨警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	高潮 注意報	氾濫 警戒情報	注意	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2	
大雨注意報 洪水注意報		氾濫 注意情報				
早期注意情報 (警報級の可能性)						
			第4次防災体制 (災害対策本部設置)	避難指示		
			高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	高齢者等避難		
			第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	第2次防災体制		
			第1次防災体制 (連絡要員を配置)	第1次防災体制		
			・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1	

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

(参考) 大雨による災害の留意事項

大雨が降ると…

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう
土砂災害が発生！

崖崩れや土石流の発生を確認してから避難することはできない。



広島市の土石流による被害の様子
(平成26年8月20日気象庁撮影)

平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は**水位が急激に上昇！**

中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子
(出典：国土地理院ホームページ)

平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤谷川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は**広範囲・長時間浸水！**

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



茨城県常総市の浸水被害
(資料：国土交通省関東地方整備局)

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が概ね解消するまでに10日を要した。

ハザードマップを参考に、
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、

安全に避難できる早い段階で避難開始を判断することが重要！



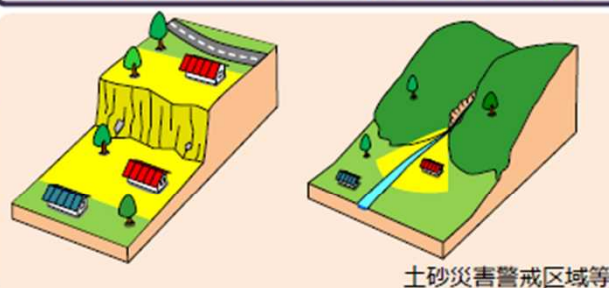
(参考)大雨による災害への備え



- ハザードマップ等により、土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の命に危険が及ぶおそれがある場所をあらかじめ確認しましょう。
- 土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度がどこで高まる予測となっているかを「キキクル（危険度分布）」の地図で確認することができます。
- 大雨により命に危険が及ぶおそれがある場所では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。

命に危険が及ぶおそれがある場所

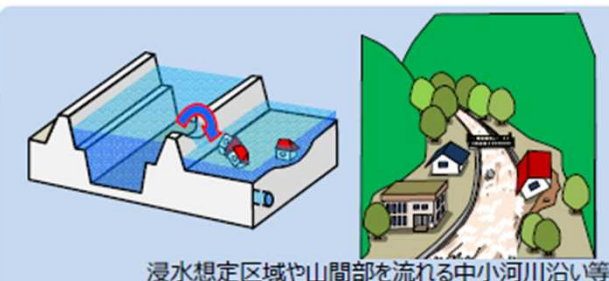
土砂災害



浸水害

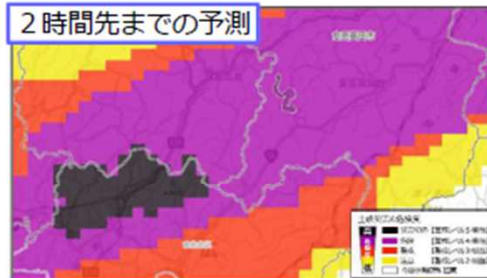


洪水災害

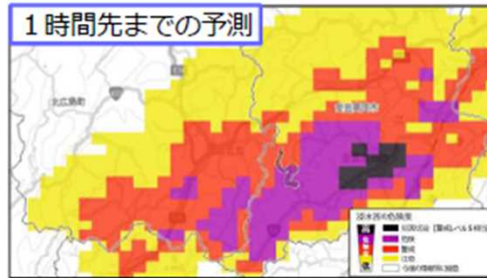


キキクル（危険度分布）

2時間先までの予測



1時間先までの予測



3時間先までの予測



災害の例



(参考)暴風による災害への備え



- 暴風が実際に吹き始めてからでは、屋外での行動は命に危険が及びます。
- 特に土砂災害や洪水、高潮のおそれがある区域では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。
- 風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。

〇〇市		今後の推移(■警報級 □注意報級)										備考・ 関連する現象	
発表中の 警報・注意報等の種別		〇〇日								〇〇日			
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6			
暴風	風向風速 (矢印・ メートル)	陸上	3	10	15	20	25	20	15	10	10	以後も注意報級	
	海上	0	12	10	20	25	20	15	10	10			

▲

暴風警報

▲

陸上では昼過ぎから
風速20メートル



※ 内閣府政府広報オンラインより。

平均風速 (m/s) およその時速	人への影響 走行中の車	屋外・樹木の 様子	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
20~25 ~約90km/h	何かがつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が壊れる。	屋根瓦・屋根材が飛散するものがある。固定されていないバルコニー小屋が移動、転倒する。	30
25~30 ~約110km/h			養生の不十分な仮設足場が崩落する。	40
30~35 ~約125km/h				
35~40 ~約140km/h	走行中のトラックが横転する。		外装材が広範囲にわたって飛散する。	50
40~ 約140km/h~		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	住家が倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	60

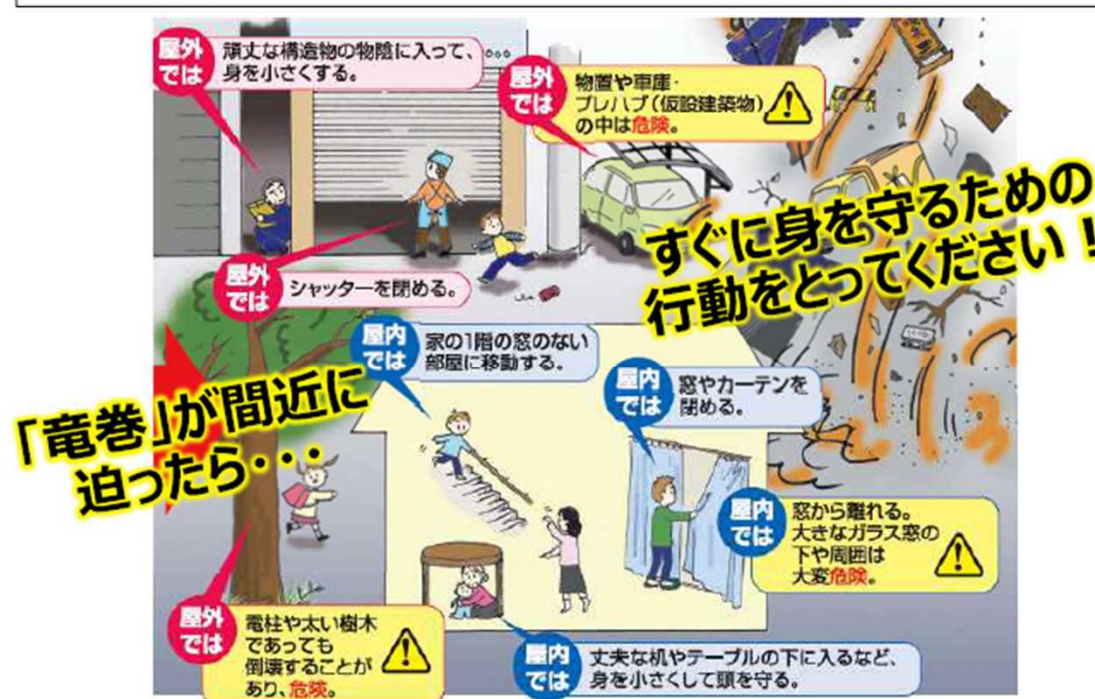
※ 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。

※ 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。

※ 詳細は気象庁ホームページを御確認ください。(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_index.html)

(参考)突風や雷による災害への備え

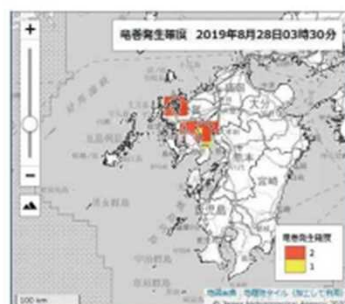
- 台風から離れた地域でも、竜巻などの激しい突風や落雷に注意が必要。
- 竜巻発生確度ナウキャストや雷ナウキャストなどの防災気象情報を活用し、発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には身を守るための行動を。



日本版改良藤田スケールにおける階級と風速の関係
～竜巻等の激しい突風によって起こり得る被害～

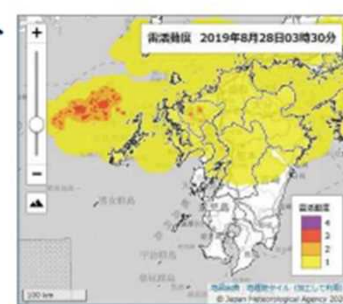
階級	風速 (3秒平均)	主な被害の状況(参考)
JEF0	25～38m/s	・物置が横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・樹木の枝が折れる。
JEF1	39～52m/s	・木造の住宅の粘土瓦が比較的広い範囲で浮き上がったりはく離れたりする。 ・軽自動車や普通自動車が横転する。 ・針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53～66m/s	・木造の住宅の小屋根(屋根の骨組み)が破損したり飛散したりする。 ・ワンボックスの普通自動車や大型自動車が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・墓石が転倒する。 ・広葉樹の幹が折損する。
JEF3	67～80m/s	・木造の住宅が倒壊する。 ・アスファルトがはく離れたり飛散したりする。
JEF4	81～94m/s	・工場や倉庫の大規模な庇の屋根ふき材がはく離れたり脱落したりする。
JEF5	95m/s～	・低層鉄骨系プレハブ住宅が著しく変形したり倒壊したりする。

竜巻発生確度 ナウキャスト



<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#elements:trns>

雷ナウキャスト



<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#elements:thns>